

本日、ここに平成28年 津幡町議会 3月会議が開かれるに当たり、まず、町政運営及び予算編成の基本方針 並びに重点施策等について、申し上げますと共に、提案いたしました平成28年度 一般会計ほか各会計の当初予算、その他の諸議案につきまして、その概要をご説明申し上げます。

本町は石川県のほぼ中央部に位置し、古来より加賀・能登・越中の三国を結ぶ交通の要衝として栄えてまいりました。そして、昨年3月14日、北陸新幹線の金沢開業で首都圏とも直結したことにより、本町の交通アクセスの優位性は益々高まり、町勢発展の可能性がさらに広がったものと思っております。

既に、北陸新幹線を利用して東京や沿線都市を訪れ、新幹線の利便性を実感された方々も多いのではないのでしょうか。

北陸新幹線の開業に合わせ再整備した、「新幹線の見える丘公園」は、本町の新名所としてにぎわい、幼稚園や保育園、そして小学校の遠足の中継地としても利用していただき、新幹線の通過時は子供たちの歓声を上げる姿が見受けられます。

また、大手旅行会社のガイドブックにも、沿線随一の新幹線ビュースポットとして大きく掲載されたこともあり、全国的に広く知れ渡りました。

さらに、I R津幡駅から浅谷(あさのたに)地内を經由し「新幹線の見える丘公園」までのコースが「新 日本歩く道紀行100選」に選定され、にぎわいの継続が期待されます。

北陸新幹線と同時に、並行在来線を引き継ぐ第3セクターとして開業した「I Rいしかわ鉄道株式会社」も、まもなく一周年を迎えます。

I Rは、他社路線とまたがることで、初乗り運賃が二重にかかり割高となる場合があることから、その負担を軽減するため、一部区間に乗り継ぎ割引が設定されております。

このようなこともあり、私は、開業以来の利用者数の推移を注視しておりますが、今年度の上半期は定期利用者及び定期外利用者とも、前回の平成24年度 旅客流動調査時と比較して増加しております。特に、定期外利用者については、新幹線の開業により増加したと考えられ、一定の新幹線効果が表れていると思います。下半期についても、現在のところ好調を維持しているようです。

なお、「I Rいしかわ鉄道」開業一周年記念イベントが、3月12日と13日の両日に予定されており、12日の津幡駅での開業一周年セレモニーは、I Rいしかわ鉄道が主体となり本町と共同で実施することになっております。セレモニーの後は、記念もちつきや特産品の展示即売など、町内各団体による多彩な催しが繰り広げられる予定でございます。また、13日は倶利伽羅駅で、地区振興会が主体となり開業一周年を お祝いする予定と伺っております。

道の駅「倶利伽羅 源平の郷」でも、倶利伽羅塾の宿泊客が前年と比較して増加しております。最新の2月末比較では、宿泊客約1,500人の増加、売店の売り上げ額も約524万円の増加となっております。宿泊者アンケートから北陸新幹線金沢開業が きっかけとな

ったと答えた人が全体の34%に上っております。また、町内の民間宿泊施設でも利用者が増加していると伺っております。

さらに、交流人口のより一層の拡大を図るため、県森林公園の森林セラピー基地とも一層の連携を図りたいと考えております。森林セラピー利用者拡大のため、「森林セラピープラス及びアクト」に加え、昨年は「森林セラピーユアーズ」が新設されました。これは、健康チェック、森林安息（フォレストレスト）、セラピーウオークなどの基本プログラムにセラピーランチがチョイスできる、個別対応型のプログラムです。今後も大いにPRし、町内外の多くの方々に体験していただきたいと考えております。

さて、昨年から今年にかけての本町は、冬型の気圧配置が長続きせず降雪量も比較的少なく暖冬であったと思います。

町道の除雪作業については、山間部での除雪は昨日までに18回を数えておりますが、町内全域での一斉除雪は1月に1回のみとなっております。

また、特に、1月24日から25日にかけて県内では能登を中心に大雪となり、JR七尾線が運休するなど交通機関にも影響を与えました。本町にも大雪警報が発令され25日朝の積雪量は役場で17センチメートル、河合谷ふれあいセンターで20センチメートル、俱利伽羅地内で21センチメートルとなり、町内一斉除雪を実施いたしました。

この1月25日から、本町では町民サービスの向上を図るため、「マイナンバーカード」を利用して全国の手続きコンビニエンスストアに設置してある多機能端末機で住民票の写しや戸籍謄本などの証明書を取得できる「証明書コンビニ交付サービス」を開始いたしました。

このサービスは県内初の取り組みであり、開始にあたり、役場に近接したファミリーマート津幡加賀爪店で、向 会議議長を初め、ファミリーマート及びシステム構築の関係者らが出席しオープニングセレモニーを行っております。

私も実際に、多機能端末機のタッチパネルを操作し証明書の交付を体験しましたが、思ったよりも簡単であり、これなら、休日や早朝・夜間でも役場が開いていない時でもサービスが受けられ、大変に便利なものになると実感したところでございます。

さて、総務省の連携中枢都市圏構想に基づく、石川中央都市圏ビジョンが本町と金沢市、白山市、かほく市、野々市市、内灘町とで協議を進め、本議会の議決を経て連携協約を締結する運びとなりました。

将来像として、「都市と自然、仕事と生活が調和する“住みやすさ”日本一の圏域、交流と連携により、全てのひとが輝き続ける石川中央都市圏」を掲げております。

連携協約全体の方向性として、圏域全体の経済成長のけん引、高次の都市機能の集積・強化、生活関連機能サービスの向上などを図ります。具体的には、石川中央都市圏ビジョン懇談会の設置、産学官連携に向けた連絡体制の強化、公立病院や救急体制の高度化促進、管外保育や子育てアプリの広域運用、文化施設間の連携、子ども交流など住民同士の交流事業の

支援など多くの連携事業を推進し、進捗管理も実施してまいります。

人口減少、少子高齢社会にあっても、活力ある地域経済を維持し住民が安心して快適な暮らしを営むための圏域形成には大きな意義があると考えております。

昨年10月に取りまとめ、発表した津幡町人口ビジョンでは、西暦2060年の目標人口を35,800人と設定しました。本町では、少子高齢化の傾向は認められるものの、県や国と比較すると緩やかに推移しております。

町のにぎわいと活力を維持し、持続可能で安全・安心な地域社会の実現を目指すため、出生率の改善に向けた取り組みと定住・移住の施策を積極的に展開して参ります。

県は、昨年10月に実施した国勢調査速報を、2月2日に発表しました。その内容は県人口では、前回調査と比較し1万5,000人余りの減少となり、2005年の調査以来3回連続で減少となっております。本町では、前回調査に比較して42人の増加となりました。微増ではありますが、人口の増加は「元気な町つばた」に希望をつなげる結果と考えております。

それでは、町政運営の基本方針について述べさせていただきます。私は、これまで一貫して2つの基本的考え方・方針によって町政運営を推し進めてまいりました。そのことは変わることなく、引き続き推進していきたいと考えております。

一つ目は、当然に行うべき現状の福祉施策などの行政サービスを着実に実行し、かつ前進させることでございます。

もう一つは、現状の行政サービスと並行して津幡町の「30年先・50年先の未来に」、言い換えれば、「私たちの孫・その子の時代に」、夢と希望が持てるような施策を剛毅(ごうぎ)果断(かだん)に着手することでございます。

この方針を基本に、引き続き具体的な施策を展開して参りたいと思っております。

具体的施策の一つ目の大きな柱は、「安全・安心なまちづくり」でございます。これにつきましては、私が町長就任当初から、町民の皆様へ申し上げてきたことでございます。これまで、デジタル防災行政無線の整備、土砂災害や洪水ハザードマップの作成、防災ハンドブックの作成など、防災情報の発信に努めるとともに、災害備蓄品の充実、遠方自治体や民間企業との災害時における応援や支援協定締結など防災・減災対策に努めてまいりました。いざという時に速やかに、これらの対策が機能するよう日頃から啓発や訓練などを実施して参りたいと考えております。

避難所となる小学校・中学校の耐震化につきましても、平成27年度事業で完了しており、子どもたちが安全で安心して学校生活を過ごせるよう、今後も教育環境の整備を進める一方、災害時における児童生徒の安全確保に万全を期したいと考えております。

また、道路につきましても、引き続き、主要な道路の整備や橋梁の耐震化・長寿命化を図って参ります。

東日本大震災は、予測をはるかに超える未曾有の大災害であり、自然災害の怖さを改めて知らされる衝撃的な災害であったと同時に、今後の防災計画のあり方に大きな教訓ともなりました。町民の「安全・安心なまちづくり」に対する関心は、ますます高まっており、被害を最小限に抑えるためには、自助・共助・公助それぞれが、災害対応力を高め、そして連携することも必要であると考えております。

区や町内会など、地域住民の方々が意見を出し合って効果的な「地域の防災マップ」を自ら作成し、早めの避難体制や避難行動要支援者対策などを検討することも、有効な手段の一つだと考えており、その支援を行うための制度の活用を推進したいと考えております。

併せて、高齢者や障害者の方など自力で避難することが困難な皆様に対しましては、地域が一体となって災害時に素早く安全に避難が行われる体制も整えてまいりたいと考えております。

具体的施策の もう一つの大きな柱は、「住んでよかったと実感できる町づくり・地域づくり」でございます。

医療や福祉施策では、子ども医療費助成の対象年齢拡充や国の制度に先駆けた町単独による予防接種への助成制度の充実を図ってまいりました。保育では、町内の私立保育園の協力のもと、病後児保育の受入れ体制を整え、さらに緊急性の高い病児保育についても金沢医科大学病院の協力により、対応することができました。また、学童保育では、入所希望者の増加に対応すると共に新設整備も行います。さらに、開所時間延長に係る運営支援をするなど、子育て支援の拡充を図って参ります。

また、一人暮らしの高齢者の方や買い物に不便を感じている方々に対して、平成25年度から国の補助事業を活用し移動販売サービス支援を開始運用しておりましたが、補助事業が平成27年度で終了いたしました。しかしながら そのニーズは非常に高く、町単独で補助し継続することとしております。なお、障害者や支援を必要とする高齢者など、車の運転ができない方の移動手段の確保として、外出支援にも取り組んでおります。

今後も、子どもから高齢者までのライフステージに応じた相談や支援が出来る体制、地域で支え合う体制を構築してまいりたいと考えております。

公立病院である河北中央病院は、病院改革プランを基本に施設・設備の整備や診療体制など抜本的な運営改革を進めております。地域医療の核となる病院として、医療検査機器等を充実させ質の高い医療の提供と、地域の医療や介護も支える病院としての体制を整えると共に経営の健全化にも努めていきたいと考えております。

北陸新幹線の開業に合わせ、津幡駅前広場の駐車場や駐輪場のリニューアルと津幡駅のバリアフリー化を実施いたしました。

IRいしかわ鉄道となりましても、快適に通勤・通学等していただけるよう、接続するJ

R七尾線の中津幡駅トイレや本津幡駅の駐車場、さらに能瀬駅周辺の整備も行ってまいりました。また、先ほども申しましたが 旭山2号公園を整備した「新幹線の見える丘公園」は人気スポットとなっております。

町民の皆様からご要望のある津幡駅東口の整備や、俱利伽羅地区での新駅の設置につきましても、定住促進、企業誘致、観光振興や通勤通学の利便性など、本町の将来にも大きく寄与できるとともに、本町にとって希望ある未来の第一歩ともなると考えております。財源等の課題もあり、町が単独で出来るものではございませんが、関係機関にも働きかけるとともに調整を行い、早急に取り組むための基礎調査に着手いたします。

体験型観光交流公園につきましては、農業振興を図る交流拠点として、生産・普及・展示、農業体験、レクリエーションなどの機能を有し、農業振興と併せ交流機会の確保など観光資源としても整備するものでございます。周辺には、津幡運動公園、道の駅、俱利伽羅塾、俱利伽羅不動寺西の坊 鳳凰殿があり、有力な集客観光ゾーンとなるものでもございます。3期17年という長期間の計画をしておりますが、まずは1期5年間の計画を実行に移し、希望と夢の持てる、そして将来の津幡町の名所ともなるよう、その第一歩として 道路の調査・設計に着手することとしております。

また、屋内温水プールにつきましては、第4次津幡町総合計画の策定時に行った町民アンケートで、最も要望が多かった施設でございます。就任以来、温水プールの建設に係る財源はもとより、その熱源・規模・場所さらには複合的施設の可能性、民間活用など、あらゆる角度から調査研究を行って参りました。第5次津幡町総合計画期間中に実現を目指しております。

そのほか、森林セラピー基地に認定されました石川県森林公園は、津幡町の大事な観光資源でもあり、より一層の活性化を推進するため、バリエーション溢れる 森林セラピープログラムも用意されております。今後も森林公園の活性化を管理者の石川県と連携して推進して参りたいと考えております。

「科学のまちづくり」は、子どもたちが科学に興味を持ち、自然現象の不思議を発見し、観察・実験して、考える力を育むための事業でございます。「ふれあい広場」をリニューアルオープンし、屋外で「不思議」を発見できる「科学のこみち」として再整備し、近接地では、子どもたちが科学の楽しさを気軽に体験できる「まちなか科学館」を開設いたしました。

また、子どもから大人まで自分の生れ育った地域の歴史を学び、郷土について再発見していただく場として、また津幡町の歴史の情報発信施設として「津幡ふるさと歴史館」が今春、開館いたします。これらの施設と文化財等を周遊することにより相乗効果も期待され、まちなかの にぎわい を取り戻したいとも考えているところでございます。

さて、平成25年10月にスタートさせた定住促進対策でございますが、本年2月末で、住宅取得等奨励金に係る申し込みは、350件、その内、町外からの申請は約150件でございます。結婚祝い金の申請は252件で、その内、夫婦の両方又はいずれかが町外である件数は219件であります。この定住促進対策は、現在のところ、その目的の一つでもある

人口流失の歯止めにもなっていると確信をしているところでございます。町ではさらに、少子化の要因にもなっている晩婚化や未婚化の進行を踏まえ、結婚を望む独身者の出会いの場を創出するため、その事業を行う団体を支援する婚活支援事業にも取り組んでおり、引き続きより一層事業の推進を図ってまいります。

これまで実施してきた施策を礎として、さらに力強く町を飛躍させるため、昨年より、第5次津幡町総合計画の策定に取り組んでまいりました。

これは、今後10年間のまちづくりの指針となるものであり、基本構想につきまして本議会の議決を経て新年度よりスタートさせたいと考えております。

総合計画の大綱では、将来像として「住んでみたい、ずっと住みたい ふるさと つばた」を掲げ、「快適で安全・安心を実感できるまち」、「地域の魅力を磨き交流と活力が生まれるまち」、「笑顔があふれ誰もが元気に暮らせるまち」、「未来を見つめみんなで学び成長するまち」、そして「ともに支え絆を深めるまち」の5つを基本目標としております。

具体的な主な取り組みとして、防災・減災基盤の充実のため、震災時に対策本部となる役場庁舎耐震化のための大規模改修や消防庁舎及び地区コミュニティ消防センターの改修・整備を図ります。また、公共施設や観光施設などにおける公衆無線LANの整備充実を目指します。

交通安全対策の充実のため、路面標示による自転車走行指導帯と歩行者通行帯の整備を推進いたします。

公共交通の利便性向上と利用促進のため、津幡駅と俱利伽羅駅の間に新たな駅の整備と津幡駅東口の整備を推進いたします。

豊かな自然・里山環境の活用のため、「森林セラピー基地」や「MISIAの森」など、石川県森林公園を中心とした自然の有効活用を推進いたします。

歴史文化伝承施設の活用のため、津幡ふるさと歴史館を拠点とした事業の展開を図ります。

観光・交流拠点の整備・充実と観光資源の掘り起こしと磨き上げの推進のため、体験型観光交流公園の整備と県森林公園や俱利伽羅峠一帯などの施設の整備・充実を推進します。

農林業の振興のため、農産物などを活用した6次産業化による付加価値の向上と魅力ある農業の実現及びまこも・おまん小豆・ヤーコン・あんずなどの特産品づくりや販売の促進を図ります。

商工業の振興のため、商工業や金融機関と連携した中小企業の経営支援及び新製品の開発、新たな市場開拓への支援を推進いたします。

結婚・妊娠・出産しやすい環境の充実のため、婚活イベントへの支援や婚活セミナーなどの開催、不妊不育治療への助成や出産祝商品券の贈呈及び妊娠・出産に関する相談体制の充

実を図ります。

子育て支援の充実のため、子供やひとり親家庭などに対する医療費の助成、多子世帯に対する保育料軽減及び病児保育体制、短期入所生活援助事業の整備を推進いたします。

地域福祉の充実のため、地域包括ケアシステムの構築推進や地域の人的資源を活用した住民主体の地区社会福祉協議会の創設及び普及を図ります。

高齢者福祉の充実として、認知症の状態に応じたケアや日常の療養支援、急変時の対応などの医療と介護サービスの提供体制及び介護が必要になっても住み続けられる仕組みづくりを推進いたします。

障害者福祉の充実として福祉教育や広報・啓発の推進、福祉サービスや相談体制の充実、専門スタッフの育成及び住まいや道路・施設などの生活環境の整備・充実を図ります。

健康づくりの推進のため、生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底、健康づくり推進員などの養成・確保及びこころの健康に関する普及啓発、相談事業、予防対策の推進を図ります。

地域医療体制の充実・強化のため、河北中央病院の診療機能の充実及びリハビリ医療の推進、周辺医療機関との連携強化、機能分担の促進を図ります。

救急医療体制の充実のため、河北中央病院と町内医療機関との初期救急時間外診療の連携強化を推進します。

切れ目のない教育の推進のため、幼児・児童・生徒の就学における円滑な接続と連携強化を図ります。

心を磨き、健やかな体を育む活動の充実のため、「早寝・早起き・朝ごはん・あいさつ」運動の定着及び学校給食での地産地食や食育の推進を図ります。

「いのち・からだ・こころ」の教育の推進のため、命の大切さを実感でき、自尊感情と自己肯定感を育む教育活動の推進及び地域社会が一体となった道徳教育・人権教育の推進を図ります。

外国語教育の充実のため、小中学校における外国語活動、外国語教育の推進及び国際理解教育の推進を図ります。

「科学のまち・つばた」の推進のため、科学イベントや科学教室などの科学に触れ、学べる機会の充実及び科学を教える体制の整備・人材の発掘・育成を図ります。

ふるさと教育の推進のため、地域の学習資源や人材の活用による歴史や伝統文化などの学習の充実及び行事や体操などでの津幡町歌の活用を図ります。

郷土の自然を継承する環境保全活動の推進のため、河北潟の水辺や森林などをフィールドとした環境教育や環境保全活動の推進及び巨樹などの地域資源を活かした環境学習機会の充実を図ります。

安全・安心な教育環境の整備のため、緊急時に備えた備品・器具の充実と講習・訓練の実施及び保護者・地域・関係機関と連携した学校安全の推進を図ります。

公民館を拠点とした社会環境づくりの推進のため、公民館の機能強化及び地域住民と連

携した公民館事業の実施を図ります。

豊かな情操を養う芸術文化活動の充実のため、多様な芸術文化に接する機会の充実、芸術文化団体の育成と協働を推進します。

生涯スポーツの推進と健康増進・体力づくりのため、大人から子供まで男女を問わず親しめる生涯スポーツの振興及び屋内温水プールなどのスポーツ施設の整備と運営の充実を図ります。

地域に根ざしたスポーツの振興とまちづくりのため、スポーツ活動の充実と地域づくりの推進及びスポーツ活動を通じたコミュニケーションづくりを図ります。

情報提供の充実のため、広報誌の充実とSNS（ソーシャル ネットワーキング サービス）を活用した積極的な情報発信及び公共施設や観光施設などにおける公衆無線LANなどの整備充実を推進します。

男女共同参画の推進のため、学校・家庭・地域・職場などにおける学習機会の充実及びワーク ライフ バランスの啓発・促進を図ります。

地域活動拠点の整備・充実のため、地区公民館の機能強化と多機能化 及び過疎地域の複数集落で、生活サービスや地域活動をつなぐ「小さな拠点」づくりの促進を図ります。

地域教育力の向上のため、地域ぐるみの学校支援推進と連携事業の実施及び地域社会で育てる心豊かな教育活動の推進を図ります。

行政サービスの充実のため、広域行政の推進と新規広域事務の検討、連携中枢都市圏事業の展開推進を図ります。

効率的な行政運営の推進のため、行政組織の合理化、公共施設等総合管理計画の策定と推進、公共施設等の有効活用・長寿命化の推進を図ります。

財政運営の健全化のため、効率的で持続可能な財政運営の推進及び収税能力の向上と新たな徴収対策などの導入を図ります。

以上が第5次津幡町総合計画に掲げた、主要事業の概要でございます。

昨年10月に策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」や その上位計画となる 当第5次総合計画をも踏まえ、現状で取り組む福祉政策などの行政サービスを後退させることなく、新年度予算では新たな取り組みにも積極的に予算計上をしており、その概要をご説明いたします。

平成28年度 津幡町一般会計 当初予算は、国・県支出金など様々な財源を有効に活用し、歳入歳出それぞれ前年度比1.9%減の12億3,600万円を見込んでおります。

まず、防災・安全対策として、旧種保育園跡地に防災拠点施設を整備いたします。施設は、平屋建て、延べ床面積約200平方メートルを予定しており、災害時の避難先としての機能を持ち、普段は防災学習施設として、また救護訓練、炊き出し訓練などを実践する場となる



と共に、備蓄倉庫などとして利用いたします。

また、災害時のトイレ機能充実のため、まず避難所となる小学校に、衛生面や使い方に配慮した下水道接続型のマンホールトイレシステムを整備いたします。

さらに、消防署車両整備として、経年劣化により老朽化が進んだ消防ポンプ自動車と高規格救急車を各1台、また、井上、中条、倉見の各分団でも同様に消防ポンプ自動車を更新いたします。

商工振興対策として、企業誘致や創業支援のほか、町内中小企業の設備投資意欲と経営基盤の安定を図るため、中小企業の設備更新に係る費用の一部を、必要条件を満たす企業に年60万円を限度として助成いたします。

交通政策対策として、津幡駅東口及び新駅設置に向けた具体的な調査として 基本構想の作成に着手いたします。津幡町は古来より、交通アクセスの発展と共に栄えて参りました。新たな人の流れは、交流人口の拡大と定住促進・産業の発展に大いに寄与すると考えております。

町営バスの運営については、経年劣化が進んだ路線バス1台を更新いたします。また、路線バス用のドライブレコーダーを3台のバスに設置いたします。ドライブレコーダーは、万が一の事故が発生した場合の事故原因の究明や、走行記録を用いた運行改善などに役立ちます。

農業振興対策として、農商工連携6次産業化推進事業に補助金を交付いたします。町内の農林水産業を営む者が自ら、加工し付加価値を高め流通販売に取り組むことに対して支援を行います。

道路整備として、体験型観光交流公園の幹線道路となる 町道竹橋大坪線道路改良事業のための測量設計や町道加賀爪18号線「住の江橋」の橋梁長寿命化に向けた補修実施設計を実施いたします。

また、町営住宅の長寿命化のため 外壁改善などを実施いたします。

子育て支援対策として、津幡小学校区放課後児童クラブは現在ある二施設の内、一施設で民間施設を賃借しておりますが、契約期限が平成28年度末であることや入所児童の増加に対応するため、新たな施設を建設いたします。また、萩野台小学校区では放課後児童クラブを新設し、子育て支援の充実を図ってまいります。

高齢者支援対策として、介護予防チャレンジ活動事業を新たに実施いたします。これは、閉じこもり防止を主眼に 65歳以上の町民が公民館活動や地域行事などに一定期間継続的に参加した場合、町内施設利用券500円分を進呈する制度でございます。

併せて、今年度から介護支援ボランティア事業において、65歳以上が対象の国庫補助事業に加え、町単独で 40歳以上65歳未満の町民を追加することで、よりボランティア活動を充実させると共に その活動回数に応じてポイントを付与し、ドレミファカードと交換する制度を継続して実施いたします。

また、国の施策で年金生活者等支援 臨時福祉給付金 給付事業として、平成27年度の簡

素な給付措置対象者のうち、平成28年度中に65歳以上となる町民1人に3万円を支給いたします。

環境対策として、再生可能エネルギー等導入事業を実施し、津幡中学校に太陽光発電及び蓄電設備を設置いたします。災害時の避難所としての機能強化をも図ることができます。

教育振興対策として、町内の全小中学校に夏季の教室環境の改善を図るため扇風機を設置いたします。

新年度の津幡ふるさと歴史館の開館に合わせては、開館記念事業を開催し町内外へ広報アピールいたします。

運動競技用備品購入として、漕艇競技用審判艇の導入や運動公園体育館のランニングマシンを更新いたします。

本年8月開催のリオデジャネイロオリンピックには、本町出身のレスリング日本代表選手の川井(かわい)梨紗子(りさこ)さんの出場に合わせ、文化会館シグナスでパブリックビューイングを実施いたします。多くの町民が一堂に会し、みんなで一緒に川井さんを応援していただきたいと思っております。

医療対策として、河北中央病院の白内障手術装置や電動油圧手術台などを更新し、医療環境の改善を図ります。また、電子カルテシステムを更新し、データベースのさらなる効率的活用と安全性を高めます。

水道事業では、能力1.6トンの給水車を購入いたします。

現在の老朽化した給水タンクを更新し、加圧式給水タンクを導入し、渇水対策や災害など非常時に備えます。

以上、新年度に取り組む新たな施策の概要についてご説明いたしました。

引き続き厳しい財政環境ではございますが、限られた財源を有効に活用し、住民サービスの向上と地域活性化を進めて参りたいと考えております。